



医療・福祉の現状

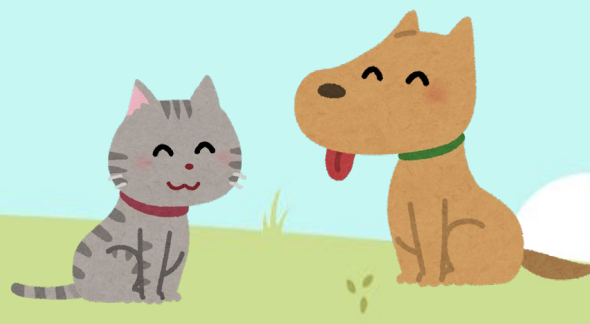
人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業



問題の背景

暮らしの中で高齢者等のペット飼育は身体的、心理的にメリットがあります。飼い主にとってペットは家族の一員であり、『生きがい』や『孤独を癒す存在』でもあります。認知症予防にも期待ができるだけでなく、介護給付費の削減につながるという報告もあります。一方で在宅医療や介護に携わっていると、デメリットも少なくありません。飼育に基づく衛生問題や、多頭飼育、飼い主の入院時や死亡時のペットの処遇など、様々な課題に直面することになります。

特に小規模自治体では、ペットの処遇について取り扱う事業者などの資源が少なく対応が困難な中、課題を抱える事例ごとに地域の担当者が努力して解決にあたっているのが現状です。



ペット飼育のメリット事例（地域診断のためのアンケートより抜粋）

- ・生活上の生きがいや役割を持てる。
- ・意欲、笑顔の素、なにより癒しになる。
- ・ペットがいるから治療やリハビリを頑張れる。
- ・後遺症で手足が不自由になった方がペットの世話で改善した、話しかけることで言葉数が増えたり、スムーズに言葉が出るようになった。
- ・看取りの時期、ペットがそばにいただけで痛みが和らいだ、住み慣れた環境、ずっと共に過ごしたペットが良薬となった。
- ・認知症の飼い主がペットの散歩をすることで運動の機会となり、他者との交流もできた、ペットが自宅に連れ帰ってくれるので、戻れなくなる事がなかった。
- ・訪問や電話をペットが吠えて知らせてくれる。

ペット飼育のデメリット事例（地域診断のためのアンケートより抜粋）

- ・ 高齢の飼い主、認知機能の低下もありペットの飼育や管理が困難となることが多い、近隣から苦情が出るようになり、さまざまな機関に相談したが、結局ケアマネジャーが動くしかなかった。
- ・ 本人と家族が同時入院し、民生委員や近隣者の手助けを受けた。
- ・ 室内飼いの犬が攻撃的で在宅サービスが受けられず、退院困難になった。
- ・ 飼っているペットが体調不良で、家族が療養者とペット両方の介護で疲弊し眠れない。
- ・ 訪問時に毎回ペットに飛びつかれ、衣類を破られる。
- ・ 去勢をしていないので毎年増えて多頭飼育になった。
- ・ 動物福祉の仕組みができていないので、支援者などの善意頼みになっている、地域の現場の人の負担が大きい。

現場での対応の現状

分野	対応の現状
医療機関	相談員やMSWが、事例に応じて一時的なペットの預かり先を探すなどの支援をする場合もあるが、容易に解決することは少ない。地域の多職種に協力を要請して対応するが、限界がある。
福祉施設	介護が必要な方の生活全般に関わるケアマネジャーが対応することが多い。ペット飼育の現場に最も近い位置にあり、抱える問題も大きく、より早急な対応を迫られることも多い。地域包括支援センターなどの多職種と連携し、早急、最善の解決を目指す。
地域包括支援センター	高齢者の生活全体の相談窓口として機能しており、包括的な観点から地域の資源にも詳しいが、ペット問題の解決に向けた総合的な仕組みは備えていない。事例に応じて多職種と連携し、最善の解決策を模索する。
社会福祉協議会	地域住民や社会福祉関係者と協力して地域における福祉課題の解決に取り組んでいる。ペットの問題に対応する業務を広く担ってはいないが、高齢者や障がい者の多頭飼育などに関わることも多い。自治体によってはペットの飼育困難に対するサポートも実施している。
民間団体、NPO	高齢者や障がい者のペット一時預かりサービス（例：ペット信託、老犬老猫ホーム）などを展開しているが、山間地については極端に資源に乏しい。

現状の考察

1. 制度がないこと

医療保険や介護保険、社会福祉制度といった公的な仕組みにペットに関する項目がなく、多くは本人や家族の『私的努力』、地域の『善意』や『民間サービス』に頼っている

2. 専門外であること

医療、福祉職は動物の世話の専門家ではないため対応に限界があり、対応中にトラブルが起きた場合の責任の所在も明確でない

3. 経済的な問題

高齢者や障がい者が経済的に困窮している場合、ペットの預かりなどのサービス利用は困難



今後への提案（希望）

1. 地域包括ケアに『ペット支援』の視点を導入する
地域包括支援センターや行政の福祉部門が、ペット支援のNPOや民間団体と連携する仕組みを整える。相談も包括的に受け止められる環境を作る。
2. 『ペット共生型』施設などの拡充
介護と同時にペット飼育も支援できる、ペット共生が可能な高齢者施設を増やす。
3. 飼育への責任意識の向上、事前契約などの普及
有事の対応は飼い主が自ら考えておくなど、意識の向上を呼び掛ける。ペット信託などの飼育引継ぎ契約などの普及に努める



まとめ

現場で目の当たりにした「ペットがいるから入院できない」という患者や利用者のひとこと、これは私たち医療・福祉側がこれまでに想定していなかった住民のニーズではないでしょうか。

現行の制度ではカバーしきれないため、地域連携型の支援が必要不可欠ではないかと考えます。私たち多職種の強みである『連携力』を駆使し、民間の支援との連携の構築にも努める必要があります。

『住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう』ペットを含む生活環境の支援が求められます。

